学部 / 人間科学領域 / 導入科目
科目コード：130002

生物学 Biology

担当教員	峰松 健夫
実務経験	担当教員は分子生物学を専門とし、生物学を基盤とした看護学（バイオロジカルナーシング）の教育と研究に携わっている。

開講年次	1年次前期	単位数	1	授業形態	講義・演習
必修・選択	選択	時間数	15		

Keywords	遺伝子、タンパク質、染色体、細胞、分化、性決定、遺伝子治療、iPS細胞、藻類、性別不合など
学習目的・目標	目的：看護における生物学的視点とその意義を理解する。 目標：iPS細胞や性別不合など看護や医療にかかわるトピックを選定し、それぞれの原理や現状、将来展望をグループで学習・発表することを通して、看護に必要な生物学的基礎知識を身に着ける。

授業計画・内容

回	内容
1	オリエンテーション（グループ分け、トピック選定）、看護における生物学の意義
2-3	グループワーク
4-7	学習成果のプレゼンテーション、ディスカッション
8	まとめ

教科書	医療・看護系のための生物学（改訂版）．田村隆明著．裳華房
参考図書等	教養としての生命科学-いのち・ヒト・社会を考える．小泉修著．丸善出版．ISBN: 978-4-621-30116-6 看護系で役立つ生物の基本．西沢いずみ著．化学同人．ISBN: 9784759820652
評価指標	レポート70%，授業参加状況（グループワーク・プレゼンテーション・ディスカッション）30%
関連科目	化学，生命倫理学，生理人類学，解剖生理学，代謝と栄養，人間病態学，疾病・障害論I，薬理学
教員から学生へのメッセージ	看護の対象が「ヒト」という生き物である以上、生物学は看護師にとって欠かせない素養だと言えます。教科書の暗記ではなく、活きた知識を身に着け、生物学の面白さを体感しましょう。